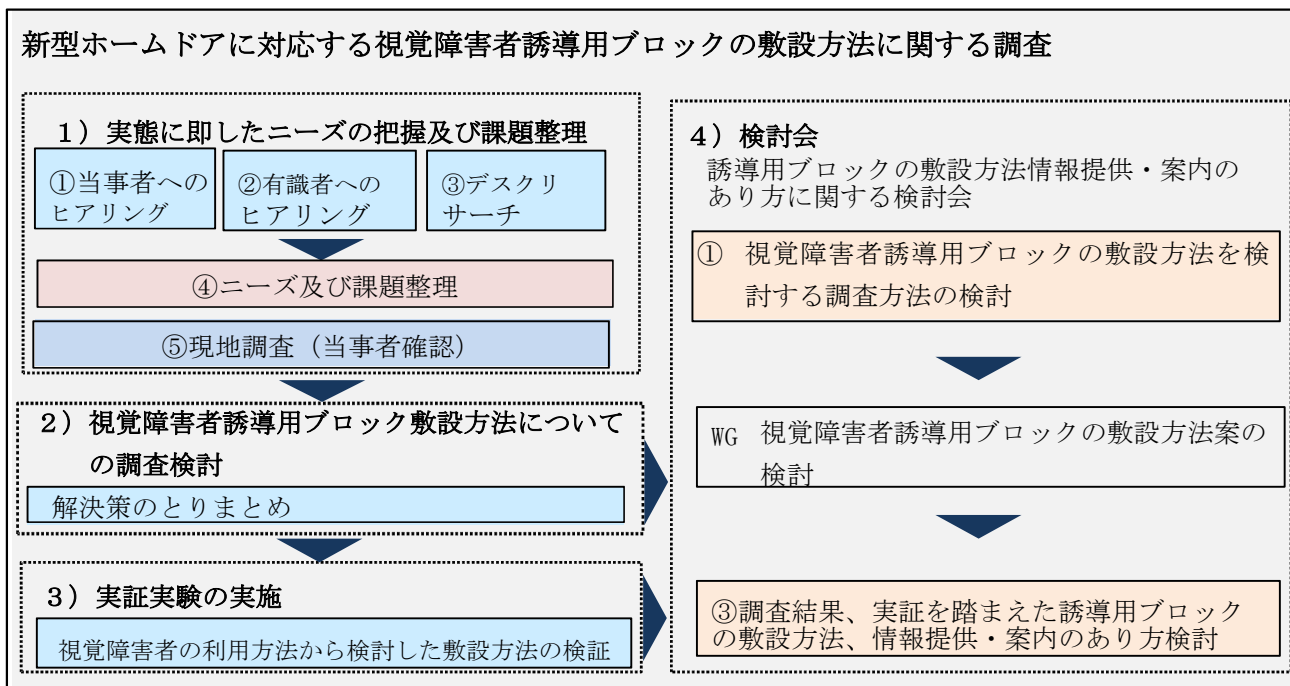


調査内容及び今後の進め方について



(1) 実態に即したニーズの把握及び課題整理

新型ホームドアに対応する視覚障害者誘導用ブロックの敷設方法について、視覚障害者・知見のある有識者等への聞き取り及び資料収集を行い、現状の公共交通施設の利用方法やニーズについての整理を行う。

○調査方法：ヒアリング、デスクリサーチ

○調査対象者：

- ・視覚障害者（弱視、色弱、全盲等の多様な視覚障害属性の団体により実施）
- ・有識者（視覚障害者の行動、ホームドア等の専門知見有識者 数名）
- ・鉄道事業者（新型ホームドア敷設駅を持つ事業者）

○検討内容

- ・新型ホームドア及びその利用等について
- ・新型ホームドアに対応する視覚障害者誘導用ブロックの敷設方法について

○実施時期：平成 28 年 12～1 月

(2) ホームドアに対応する視覚障害者誘導用ブロック敷設方法検討のための現地調査

ニーズ調査をもとに、実際の新型ホームドアの敷設駅について現地調査を行い、実態の把握を行う（資料 3 にて掲出されている駅の中で、今後事業者との調整を行う）

○調査内容

- ・新型ホームドアの現状について
- ・新型ホームドアに対応する視覚障害者誘導用ブロックの敷設状況について
- ・事業者にて把握している実態及び課題、意見等について
- ・その他

1) 調査設計に向けた事前調査

(ホームドアおよび視覚障害者誘導用ブロック敷設方法等の確認)

○実施時期：平成29年1月中旬～下旬

○参加者：委員より代表数名及び事務局 合計5～6名(予定)

2) 視覚障害当事者モニターによる現地調査およびヒアリングによる検証

○実施時期：平成29年1月末～2月頃

○参加者：視覚障害者(弱視、色弱、全盲等の障害状況にあわせ、歩行訓練経験有無など属性特徴を把握のうえ、数人以上)及び委員代表数名、事務局 合計6～8名(予定)

※詳細の場所等においては、今後事業者と調整

(3) ホームドアに対応する視覚障害者誘導用ブロック敷設方法検討のための実証実験

現地調査等により、視覚障害者の多様な「情報」や「設備」の利用方法を明らかにした上で、検討した結果の視覚障害者誘導用ブロック敷設方法を実証する。

○調査方法：実証実験

○実験場所

今後関係者と調整のうえ、決定する。(仮設のプラットホーム等による対応を含む)

○調査内容

・以下3つに大別される新型ホームドアについて、上記調査に基づいた視覚障害者誘導用ブロックの敷設を行い、検証を行う(分類については今後の検討において変更となる可能性あり)

① 昇降式(ロープ式、バー式)

② マルチドア形式

③ 軽量式・大開口ホーム柵

○実施時期：平成29年2月～3月上旬

○被験者：以下の多様なモニターにて実施する

・ 晴眼者／障害度合いが軽い視覚障害者／光覚がある重度視覚障害者／全盲者

・ ①先天性・中途 ②歩行訓練を受けている・いない ③外出に慣れている・不慣れ

(全盲・弱視・視野狭窄・色弱など なるべく多様な人)

以上

(スケジュール)

事業内容	12	1	2	3
1) ヒアリング及び既往研究の整理				
①視覚障害者ニーズ調査（ヒアリング）		■		
②有識者へのヒアリング調査		■		
③デスクリサーチ	■	■	■	
④ニーズ及び課題整理		■	■	
2) 現地調査				
①事前調査		■		
②モニターとの現地調査		■	■	
③課題整理		■	■	
3) 実証実験				
実証実験			■	
4) 検討会				
検討会		●		●

- ・ ニーズ調査 1月
- ・ 現地調査 1月～2月
- ・ 実証実験 2月下旬